

# 医療・健康

## 向き合う



私たちは患者団体・障がい者団体のリーダーの会だ。言い出しつぽは「すべての人が気持ちよい排せつができる社会」を目指す日本コンチネンス協会の看護師、西村かおるさん。「障がいや疾病、立場を超えて、互いが元気になる集まりを開きたい。さまざまな団体とつながれば、一緒にできることがあるはず」と考えたのだ。

一般社団法人 VHO-net 理事 増田 一世さん ①

疲労を起こしているが、後継者がいない。多くの団体は同じような問題を抱えているはず」とある集まりで本音を語った。

私は精神障害のある人を地域で支える「やどかりの里」(さいたま市)で創設者のあとを受け、次世代リーダーの役割を担ったところだった。力ある人がけん引するのではなく参加型の組織運営を目指していた。一人ひとりが主体的に関わるリーダーの会という構想にひかれ、世話人として参加することになった。

製薬大手ファイザーでは2000年2月に日本で初めて患者団体支援が専門のペーシエント・リレーションズ担当を置いた。その一人が会の理事を務める喜島智香子だ。当時「患者中心の医療」の実現がうたわれていた。ただ実際の患者や家族の声は小さかった。日本の患者団体は海外と比較すると財政的にも厳しく、人材不足でもあった。

まずは団体の運営をサポート

## ヘルスケア団体支援、企業と連携

し、長期的スパンで団体との相互理解に基づくパートナーシップを確立したいと考えていた。

患者団体・障がい者団体のリーダーたちの思いと企業の新たな取り組みが交差した時、ヘルスケア関連団体ネットワーキングの会(VHOnet)が誕生した。01年10月、2日間のワークショップ「活動に駆り立てるもの・越えるもの」を開催。リーダーたちが自身の体験を語り合い、共通の課題を見いだすことから取り組みが始まった。

それから20年余、活動が広がり、北海道から沖縄まで9地域に学習会がある。21年に一般社団法人となり、正会員76団体、メンバー166人に増えた。

まずだ・かずよ 1978年明治学院大学卒。精神障害者らの地域生活を支援する公益社団法人「やどかりの里」(さいたま市)理事長。日本障害者協議会(JD)の常務理事も務める。2001年にVHOnetの世話人となり、現在は理事。